

## 知床斜里駅の今



夏は扇風機、冬は暖房に  
あたれるこの席がお気に入り!

岩崎 愛絆さん <斜里高2年>



小さい頃から知り合いで  
みんなねぷたが大好き!

(左から)浮須 翼さん<網走南ヶ丘高3年>、  
金澤 彩羽さん<2年>、笠井 莉緒さん<2年>

笠井さん 冬の景色が好きです。木に雪が積もっているのがキレイで、見えると嬉しい気持ちになります。流氷が通学のときに見られるのも、こここの特権だと思います。2年生になつた今では見慣れてしましましたけど（笑）。

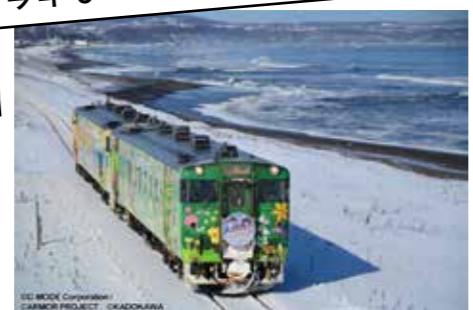
## 床斜里駅のこれから

投票ありがとうございました！

## 多目的スペースの愛称が決まりました！

昨年3月まで「知床斜里観光案内センター」として使われていた場所が「知床斜里駅多目的スペース」として生まれ変わりました。みなさんの投票により決定した愛称は斜里町HPでご確認ください!!

今年もJR流氷物語号が運行!



運転日:2026年1月31日(土)~3月1日(日)、7日(土)・8日(日)

## 知床斜里駅のこれまで



1925年に開業し、2025年11月10日で100周年を迎えた知床斜里駅。今回は町の暮らしを支え続けてきた知床斜里駅を、過去・現在・未来の3つの視点からご紹介します。

まずは、これまでの知床斜里駅を振り返ってみましょう。100年前の開業当初、今と同じ場所にできた駅の名前は「斜里駅」。

それまでの主な輸送・交通手段は船でした。しかし海が荒れるときや流氷の時期になると流通が止まり、町の人々は不便を強いられていました。

1925年に鉄道が開通し、安定して大規模輸送ができるようになったことで、町の姿は変わり始めます。中心部が海側から駅周辺へ移り、より多くの人やものが行き交うようになり、斜里駅は町民の生活・産業の要となりました。

それから道路の発達や自動車の普及が進み、路線の数は減りましたが、現在も高校生の通学や観光客の足として斜里の町を支えています。

背景の地図は、斜里駅の開業から4年後に製作された「斜里市街明細図」。今の街並みと比べながら見てみると思わず発見があるかも。

# しれとこしゃり 知床斜里駅の

# これまで・今・これから

## 駅と町に関わるできごと /

1925(大正14)年	「斜里駅」開業〈網走・斜里〉
1937(昭和12)年	火災により駅舎焼失・数年後再建
1964(昭和39)年	知床国立公園指定
1971(昭和46)年	根北線廃止を認める条件のひとつとして老朽化した駅舎が改築
1998(平成10)年	「知床斜里駅」に改称
2005(平成17)年	知床が世界自然遺産に登録
2007(平成19)年	複合駅舎にリニューアル(駅舎改修、観光案内センター新築)
2025(令和7)年	知床斜里駅開業 100周年

出典：斜里町HP「町のあゆみ」  
宮内盛一「写真から見る国鉄斜里駅舎の歴史」(2007年)



現在の駅舎は2007年にリニューアルしたもの。当時増設された観光案内センターは現在、多目的スペースとして開放され、観光客向けの記念スポットや地域住民の憩いの場として使われています。